

第3回精神保健フォーラムへの祝辞

鈴木二郎

(日本精神神経学会理事長)

全国の精神医療に従事する27団体が一堂に会してフォーラムを開催されることにお祝いを申し上げます。1988年、1991年と「精神医療の改革」と「精神保健法の改正」をめぐる節目の時々すでに2回開催され、今回で3回目と努力を重ねておられる関係者に敬意を表します。

今回のフォーラムでも、1999年の法改正を目指してのシンポジウムが企画されていることは、時宜を得たものと思われます。

時あたかも20世紀から「心の世紀」と人びとが呼ぶ21世紀に入ろうとするこの時期により良い精神医療、保健、福祉を追求することはまことに有意義なことであります。

その方向は、精神障害者の人権尊重とノーマライゼーションの実現であります。

現代は、我が国だけでなく、世界的にも民族、宗教、社会の大きい変動があり、技術革新の一方で経済の動揺があり、人びとはともすれば自己を見失いがちであります。薬物嗜癖、幼少年の暴力化もこうしたことと無縁ではありません。この時代の中で精神医療、保健、福祉は確固とした方向を見すえて進まなければならないと思われます。

まず国内の現状を知ることは第1ですし、国際化の中で、たとえ或地域であっても他国の優れた実践を知ることはきわめて有意義であります。

こうした社会の変動と国際化の潮流の中で「精神保健福祉法」のみでなく、精神障害者を含む「障害者プラン」全般の改革が検討され、精神疾患の予防の方向が指向されるべきであります。

一方新しい21世紀に入って早々2002年に、世界精神医学会(WPA)横浜大会が本会場で開催されることが予定されております。この大会は、日本精神神経学会だけでなく、広く精神医療、保健、福祉さらには「心のケア」に携わる人びと、さらには一般市民にも加わってもらおう開かれた集まりを目指しています。時期は2002年8月24日～29日で国内外からの出席者は約1万2千人程を希望しております。この2002年横浜大会は、新世紀初頭にあたって、我が国と世界、ことにアジアの精神医療、保健、福祉の新しい出発になることも期待されています。このフォーラムにご出席あるいは関係しておられる方々の絶大なご支援、ご協力をお願いいたします。

本フォーラムが、様々な視野から十分な分析を深められ、新しく実践的な活動指針を出されることを心から祈念いたします。